

平成 24 年度第 5 回修習セミナー(午後の部) 報告

中国本部修習技術者支援委員会

委員 長原 基司

広島県 情報工学部門



平成 24 年 11 月 3 日 (土) に第 3 ウエノヤビル 8 階会議室において第 5 回修習セミナー(午後の部)を開催し、15 名(講師及び委員 8 名含む)の方にご参加いただきました。

内容は、本年度発足した技術者教育研究会より宮下氏による**技術者倫理に関連するガイドダンス**講演と、それに伴う仮想事例に対するグループ討議を実施しました。

13:30~14:00

「技術者倫理～個(ミクロ)から公(マクロ)へ」

宮下 和也氏(電気電子部門)

技術者教育研究会において研究している技術者倫理について倫理の考え方を中心に講演して頂きました。



【講演の様子】

■講演内容要約

まず、個人の倫理の本質としてモラルと常識のうえに成り立っていること、それが社会において技術者として活動する事により、様々な経験から個の倫理から公の倫理に変わる。また、技術は時に驚異となる事を踏まえて、技術者の倫理観として、「威力(技術)は公衆が安全である事に責任をもつことが必要」である。さらに、倫理観にはその地の文化を尊重する事が大切であり、技術士会が定めた倫理綱領の「法規の遵守」の項目に「対象と

なる地域の法規を遵守し、文化的価値を尊重する」の項目が他の倫理規定と異なる点を指摘された。さらに、シティーコープ・タワーの事例をもとに技術的問題点が発生した意志決定のプロセスについて成功事例を紹介し、その中で発注者側のとの信頼関係と共通意識が重要である事を示された。

14:00~16:40

グループ・ディスカッション

発表資料作成・発表・討論

講演者が準備した仮想事例をもとに、2チームに分かれ、技術者倫理の問題点の抽出と技術者が必要とされる素養を、グループ討議し、結果の発表を行いました。



【グループ討議の様子】

各チームとも、問題点の抽出や技術者に要求される素養など数多く出されました。

発表においては、時間的制約もあり、まとめ切れていない面もありましたが、そこは話術でカバーするなど技術者としての経験が生かされていたと思います。

最後に、小田委員の総括でグループ討議を終了しました。

なお、当日体験論文を持参された方の査読・指摘が休憩時間などに実施され、さらに懇親会まで続けました。